

栃木県吹奏楽連盟〈季刊〉広報誌 平成26年度 1号

吹奏太郎





目 次

- ★ 理事長 巻頭言 「コンクールが終わっても吹いていますか？」…………… 1
栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

 - ★ 1. 平成26年度 東関東マーチング講習会・発表会 The World of Brass 2014 報告 …… 2
壬生町立壬生中学校 吹奏楽部 ドラムメジャー 大塚 有紗

 - ★ 2. 第20回東関東バンド・セッション2014 及び 第15回東関東選抜吹奏楽大会 報告… 2
第15回東関東選抜吹奏楽大会に参加しての感想
高根沢町立阿久津小学校 金管バンド部 部長 大森 双葉
第20回東関東バンド・セッション2014 東関東吹奏楽研修会に参加しての感想
栃木県立石橋高等学校 吹奏楽部 顧問 印出 明子

 - ★ 3. 第20回東関東吹奏楽コンクール 報告 …………… 3
小学校の部 那須塩原市立大山小学校 6年 近野 柊子
中学校の部 A部門 宇都宮市立陽東中学校 3年 廣野 愛果・吹奏楽部 顧問 小松崎倫子
高等学校の部 A部門 宇都宮北高等学校 吹奏楽部 顧問 田村 静香
高等学校の部 B部門 栃木県立黒磯高等学校 吹奏楽部 部長 田口智佳子
一般の部 作新楽音会 常任指揮者 齋藤 崇

 - ★ 4. 第20回東関東マーチングコンテスト 報告…………… 6
壬生町立南犬飼中学校 吹奏楽部 部長 小川聖月

 - ★ 5. 第13回東関東小学校バンドフェスティバル 報告…………… 6
那須塩原市立南小学校 6年 植松 亮

 - ★ 6. 第14回東日本学校吹奏楽コンクール 報告…………… 7
宇都宮大学教育学部附属中学校 吹奏楽部 部長 上田朱莉・吹奏楽部 顧問 近藤 円佳
市貝町立市貝中学校 吹奏楽部 部長 北野夕夏

 - ★ 7. クリニック&コンサート情報…………… 8
クリニック（講習会）の情報
栃木県吹奏楽連盟加盟団体から広報部に寄せられたコンサートの情報

 - ★ 編集後記
栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長 三橋 英之（作新学院高校）
- 



「コンクールが終わっても吹いていますか？」

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

吹奏楽コンクールが年々歳々盛大となり、素晴らしい発展を遂げている状況にあります。同時に学校の部活動としての吹奏楽部の役割も大きく活性化し、余暇の善用としても大きな役割を担っています。

吹奏楽コンクールは日ごろの練習の成果の発表の場として、重要性を持っていますが、時として、過熱化しすぎて間違った取り組みをし、本来の部活動の在り方や音楽の本質性を忘れてしまうことが往々としてありがちです。楽しいはずの音楽が、勝負のための音楽になり過ぎ、さまざまな強制的な練習となって、音楽が嫌いなものになってしまうこともしばしばありがちです。そのため高校生になったら、社会人になったら、音楽をやらない、楽器を吹かない等ということにもなりかねないのです。

「音楽は本来、楽しいものでなければならない」と、誰しも思うことでありましょう。その楽しみ方は千差万別だと思いますが、最終的には美しい音楽、高度な音楽で感動を求めるものであると思います。これを味わうには聴いて楽しむことが圧倒的だと思いますが、奏でて楽しむことが出来て、より以上の楽しさを味わうことが出来るのです。

しかし、奏でて楽しむという高度な音楽を作り出すには日ごろの厳しい、辛い練習に耐えて初めて作り出すことが出来るのだと思います。本来、音楽は上手、下手の勝負事で使うものではありませんが、この勝負事の意識により音楽の技術のレベルがアップするのだと思います。このことから、コンクールという勝負事の場があってこそ、その目的を持って一生懸命練習するものです。

そして、多くの部員と合奏を行い、心をつにしてレベルの高い音楽を奏でることで、より音楽が好きになり、より楽しくもなるものです。

このことから、私たち指導者にとって大切なことは吹奏楽部の活動の在り方に間違いのないようにコントロールすることが大切だと心得なければなりません。

音楽はコンクールのためのものではないことを再認識し、子どもたちが生涯にわたって音楽が好きになれるような練習方法を見出すことが、私たちにとって大切なことであると思います。

部活動で養った音楽を他の場所でも楽しめるよう心し、楽器から遠ざかることなく、今日も音を出してみましょう。

楽しい音楽が、また別な形で味わうことが出来るに違いありません。



平成26年度 東関東マーチング講習会・発表会

「The World of Brass 2014」in さわやかちば県民プラザ 平成26年5月10日(土)

「The World of Brass 2014 に参加して」



壬生町立壬生中学校 吹奏楽部 ドラムメジャー 大塚 有紗

今年度、私たちにとって、初のマーチングの発表の場となったのがこのThe World of Brass 2014でした。新体制になって、初めて多くの人の前で演技する機会だったこともあり、本番を迎えるまでには緊張と少しの不安がありました。しかし、本番になると、緊張も不安も消え、とても楽しく演技することができました。

私は、1・2年生の時は打楽器としてマーチングの大会に出場していました。しかし今年は、ドラムメジャーとして出場させていただきました。The World of Brassでは、指揮者として指揮台の上に立ち、指揮をしました。本番、あの高い台に立ったとき、今までとは見える景色が全く違っていました。緊張がこみ上げてきましたが、みんなの顔を見た瞬間に、安心感が生まれ、緊張は消えていました。このとき改めて、みんなに感謝するとともに、みんなの顔を見ながら演技ができるという、指揮者だけの特権をうれしく思いました。

また、このイベントに出させていただいたことにより、他県の学校の演奏演技を見ることができました。自分たちよりも上手な学校はたくさんありましたが、私たちはそこで自信を失うのではなく、自分たちの演技に生かそうと、各学校の良いところを見つけ、様々なことを学ぶことができました。そして、それは夏の大会への大きな財産となりました。

自分たちの最高の演技ができ、多くのことを学べたThe World of Brassは私たちにとって、とても良い経験となりました。



第20回 東関東バンド・セッション2014 及び 第15回 東関東 選抜吹奏楽大会 報告

平成26年6月7日(土)・8日(日) 会場 厚木市文化会館 大ホール

「第15回 東関東選抜吹奏楽大会に参加して」

高根沢町立阿久津小学校金管バンド部長 大森 双葉

私たちは、6月15日に行われた「東関東選抜吹奏楽大会」に参加させて頂きました。先輩方が卒業して、新入部員が入り、スタートしたばかりのこの時期に大きな大会に出場することは、うれしい反面、心配と不安もありました。でも、先輩たちががんばってきた事が認められて選ばれた大会なので、先輩たちの為にも、「すてきな舞台にしよう！」と部員一同、心を一つにして練習にはげめました。先生方の熱心な指導と、保護者の方の応援と協力のおかげで、阿久津小らしい楽しく元気なステージを作り上げる事が出来ました。

本番はとても緊張しましたが、演奏の途中、客席から手拍子が聞こえてきて緊張も楽しさになりました。先輩が卒業して、不安でいっぱいだった思いが、この大会を経験したことで、「私たちでも出来るんだ！」という自信が持て、部員の仲も深まり、大きく成長することが出来ました。

貴重な経験をありがとうございました。



「平成26年度 東関東高等学校選抜バンドに参加して」

栃木県立石橋高等学校 吹奏楽部 顧問 印出明子

6月14・15日に神奈川県厚木市の厚木市文化会館において開催された第20回東関東バンドに栃木県から選抜された高校生10名とともに参加してまいりました。

本校からは部長と顧問が参加したのですが、事前に配布された楽譜を譜読みしながら「こんなに難しい曲を2日間でバンドとして完成させることができるのだろうか？」と不安になっていましたが、さすがは各県から選抜された生徒たち、千田先生のご指導の元、どんどんバンドとして形になっていく姿に感動しました。

練習以外でも各県の生徒のみなさんと交流できたことは生徒にとって大変刺激になったと思います。栃木県代表の生徒たちもはじめは大変緊張してコミュニケーションを図るのにも苦勞していましたが、それは同じ吹奏楽を愛するもの同士、2日後にはすっかり打ち解けていました。普段部活動をリードする立場にある生徒がこのような経験を通してよりリーダーシップを発揮することができるきっかけにもなると感じたので、これから吹奏楽連盟の行事はもちろん、他団体との交流をもっと積極的に図ることが必要なのではと考えさせられました。このような機会を与えていただき心から感謝しております。ありがとうございました。

3 第20回 東関東吹奏楽コンクールに参加して

「東関東吹奏楽コンクールに参加して」 小学校の部

那須塩原市立大山小学校 6年 近野 柊子

今年は、初めて3年生も部員に加わり、一緒に練習をしてきました。頑張ってくれた3年生と共に、ずっと目標にしていた東関東吹奏楽コンクールに出場させていただくことができ、とてもうれしかったです。

茨城県の会場で演奏するのは初めてだったので、ホールについたときは、とてもドキドキしました。でも、学校を出発したときから、いい演奏ができそうな予感がしていたので、バスの中ではわくわくして、ステージに立つのが楽しみでした。

本番では、少し失敗もありましたが、とても気持ちよく演奏することができ、いい気分退場したことを覚えています。

他校のすばらしい音、いきいきとした演奏を聴くことができ、とても勉強になりました。そして、自分たちももっと努力しなければいけないと感じました。

たくさんの方々のおかげでコンクールに出場させていただくことができたので、これからも周囲の方々への感謝の気持ちを忘れずに、今回経験したこと、感じたことを次に生かして、しっかり頑張っていきたいと思います。



「東関東吹奏楽コンクールを終えて」 中学校の部A部門

宇都宮市立陽東中学校 吹奏楽部 廣野 愛果

今年の東関東吹奏楽コンクールは、慣れ親しんだ宇都宮市文化会館で行われました。地元のため、緊張も少なく、落ち着いて出場することができると感じていました。しかし、大勢の部員がいる強豪

校の生徒が歩く長い列を見たり、普段とは違う場所で音出しをしたりすると、今まで何度も訪れている場所のはずなのに、まるで初めて来た場所のように感じ、戸惑いました。

しかし、舞台上がり眩しい照明に包まれると、今まで練習してきた学校での景色が浮かび、自然に落ち着き、冷静になることができました。

私の学校は、課題曲は「行進曲 勇気のトビラ」を、自由曲では「鳥之石楠船神～吹奏楽と打楽器群のための神話～」を演奏しました。どちらの曲もその当時では最も良い演奏をすることができたと思います。

この東関東吹奏楽コンクールを迎えるまでに、さまざまな問題や出来事がありました。一人一人の基礎力のレベルを上げたり、全員で「音楽」を作るという意識を高めたりなど、とても苦労したことを覚えています。しかし、こうして東関東に出場できたことは、もちろん嬉しかったし、部員である仲間と共に努力することの大切さなど多くのことを学ぶことができました。

この経験をこれからの生活に生かし、また本校の伝統として後輩たちに伝えていきたいと思います。

「子どもたちと共に」

宇都宮市立陽東中学校 吹奏楽部顧問 小松崎倫子

本年度の本校吹奏楽部は、3年生8名、2年生19名、1年生22名の計49名という構成メンバーで、特に1年生は初心者も多く、とても東関東コンクールに出場できるような状況ではありませんでした。そのような現状で、東関東に出場できたのは、子どもたちの並外れた努力と講師の先生方の熱いご指導、そして保護者の方々のきめ細やかなサポートがあつての賜物と心から感謝しております。

本校吹奏楽部では、コンクールや芸術祭等の発表の場の度に、『前回よりも成長した納得のいく演奏』を心がけています。それは、時には1・2年生にとっては心が折れそうなほど長時間の練習となったり、納得のいく音を追求する自分との闘いになったりします。しかし、その『納得のいく演奏』ができたとき、小さな音楽家として、ひいては人間として一步成長できるのではないかと思います。東関東吹奏楽コンクールに出場する他県の素晴らしい演奏を聴く度に、私は顧問として、指導者としてまだまだ未熟であると感じております。しかし、日々努力している子供たちと共に、音楽を創り上げる喜びを感じております。今後も音楽に携わる者として、また人間としてこれからも成長していきたいと思ひます。

陰ながら支えてくださった県吹奏楽連盟の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。



「第20回 東関東吹奏楽コンクールに出場して」高等学校の部A部門

宇都宮北高等学校 吹奏楽部顧問 田村 静香

“金賞・県代表”という部員一丸の目標が達成されたその日から、次なる舞台への努力が始まりました。蒸し暑い音楽室で、毎日毎日膨大な時間をかけて合わせるB♭の音。課題曲での連符との格闘、難しい8分の6拍子、5度音程。そして何度も何度も聴き味わったラフマニノフの音楽に深い思いを重ね、親愛なる調となったDes-durの響き。まさに音楽の深みに触れ、自分たちの音楽を構築していく過程は充実した時間でした。

本番の演奏への反省は尽きません。それまでに準備してきたことを出し切っても届かなかった東関東の高い壁。目指すべきは豊かな音色、正確な音程、そして熱い気持ち。言葉にすれば簡単ですが、

それを当たり前で持てること。演奏面以外でも、例えば楽器置き場の使い方、歩き方、待ち方、表情…、東関東常連校の部員たちは(先入観もあるかもしれませんが)眩しく見えたように思います。コンクールはいわば非日常な世界、特別な空間のように感じますが、彼ら彼女らの高い水準は毎日繰り返される日常の活動の中にあり、自校のサウンドへの誇りと確固たる意志を持って行動していることを容易に感じました。

自分たちにもできる。人の心を動かす演奏ができる。未熟な自分たちも、仲間と共に音楽に向き合える一日一日を大切にしながら確実に前に進みたいと思います。最後に、ご指導いただいた講師の先生方と、朝から晩まで校内の至る所で音を出していても温かく見守り、応援して下さる本校の先生方、そして部員のご家族に心からの感謝を表したいと思います。

宇都宮北高等学校 吹奏楽部部长 2年 天池 美都

東関東吹奏楽コンクールに出場して強く感じたのは、自分達の演奏の未熟さ、そして何より意識の甘さでした。行き慣れた宇都宮市文化会館での大会でしたが、他県の名だたる強豪校が揃い、県大会とは比べものにならない独特の緊張感が漂っていたのを鮮明に覚えています。

他校の演奏から伝わってきた気迫、そして全国大会出場を本気で目指さなければ自分達の音楽を評価してもらうことも難しいという厳しさを痛感しました。部員一丸となって良い音・良い響きを追求めた日々はかけがえのない思い出です。課題曲では戦国の世のザビエルに想いをはせ、自由曲ではラフマニノフの甘美な旋律に惚れ込み、自分達の大好きな音楽をいかにして聴く人に伝えるか、試行錯誤を繰り返しました。

東関東の大きな舞台へ導いてくださった先生方、先輩方へは感謝の気持ちで一杯です。この貴重な経験を忘れずに、部員一同、今後一層の努力を重ねていきたいと思っています。

「第20回東関東吹奏楽コンクールに出場して」高等学校の部B部門

黒磯高等学校 吹奏楽部 部長 田口 智佳子

私たちは、茨城県立県民文化センターで行われた、第20回東関東吹奏楽コンクールに出場させていただきました。昨年までは、県のコンクールで銅賞という結果で、東関東出場など、夢のまた夢のようなことでした。表彰式のステージで、自分たちの結果を緊張の中待っていたことを昨日のように覚えています。「黒磯高等学校 ゴールド金賞」の石塚先生の声未だに耳に残っています。何度思い出しても、ドキドキする言葉です。

東関東コンクール当日は、朝5時に集合し、体育館で練習をしてから出発しました。会場ではじめに戸惑ったことは、今までと搬入の方法・経路が全く違ったことでした。会館の周りを通る経路だったので、雨や風がなくて本当によかったと思いました。次に戸惑ったことは、ホールの残響がかなりなかったことでした。演奏開始直後、大変戸惑いました。しかし、すぐ気持ちを切り替え演奏に集中しました。今まで練習してきたことを、発揮できたと思います。演奏後他校の演奏を聴くと、どの学校も会場いっぱい音を響かせていました。表現力や一体感など勝っており、まだまだ私たちには練習が必要なことを改めて感じる事ができました。後輩たちには、今回の経験を生かして今後頑張ってもらいたいと思いました。

最後に、東関東出場にあたり多くの方々を支えられ栃木県代表として東関東吹奏楽コンクールの舞台上に立てたことを心から感謝したいと思います。



「第20回 東関東吹奏楽コンクールに出場して」 職場・一般の部

作新楽音会 常任指揮者 齋藤 崇

作新楽音会は栃木県代表として、千葉県文化会館で行われた第20回東関東吹奏楽コンクール職場・一般の部に出場いたしました。結果は…いい意味で、団員達の予想に反し、見事に「銀賞」でした。

一般バンドには様々な苦悩が存在します。練習には人が集まらない。メンバーの来る時間、帰る時間が事情によって人それぞれである。練習に来るメンバーが日によって入れ替わり、バランスが取れない。練習でやったことがなかなか定着できないといった苦悩がありました。したがって勝負は前日と当日。2日間で、それぞれ3時間ずつの限られた時間でどのように仕上げるか。奏者のモチベーションをどのように本番に向けて高めていくか。上手くいくのかどうか大変不安でした。

しかしながら、2日間の練習はお見事でした。時間の経過とともに音楽のレベルが明らかにアップしていくことが分かりました。そして、栃木県代表として恥じない演奏をしようと誓った本番は、会場中に美しいサウンドを響かすことができました。曲のエンディングでは奏者の感情が強くなり、会場も味方にできた演奏でした。「やるべきことは全てやった」、「やりきった」という達成感がありました。

私自身、栃木の一般団体として、他県にもアピールできるような演奏、関わりをしていきたいと強く考えております。

4 第20回 東関東マーチングコンテストに参加して

「東関東マーチングコンテストに参加して」

壬生町立南犬飼中学校 吹奏楽部 部長 小川聖月

南犬飼中は、東関東マーチングコンテストに初めて参加しました。千葉ポートアリーナは予想以上に広く、フロアに立った瞬間、ここで演技をするのだと思うと、緊張感が高まりました。でも、本番では、練習の成果をよく発揮できたと思います。銀賞という結果を聞いた時、驚きと感動で胸がいっぱいになりました。今まで経験したことのない、炎天下の屋外での辛い練習を乗り越え、東関東銀賞という結果をいただいたことは、忘れることのできない素晴らしい思い出です。



5 第13回 東関東小学校バンドフェスティバルに参加して

「第13回 東関東小学生バンドフェスティバルに参加して」

那須塩原市立南小学校 6年 植松 亮

小学校バンドフェスティバルに初めて参加したのは、僕が4年生の時でした。

音を磨くだけでなく、見ても楽しい演奏を目指しました。動きもあり、よくわからないまま夢中で練習しました。その時は東関東大会を目標に頑張り、そして行くことができました。

去年は東関東大会で銀賞です。そうすると全国大会にどうしても行きたくなりました。去年までは6年生たちが下級生の面倒をみて、しっかり教えてくれて各パートをリードしてくれました。しかし、今年はそうはいきません。なぜなら今年の6年生は男子2人しかいないからです。そのため5年生と

協力してみんなで一致団結して頑張ってきました。

僕は大会の前に「全国大会へ行く」とみんなに宣言しました。そしてゴールド金賞という言葉聞いたときには信じられませんでした。それと同時にみんなとの約束を果たせてほっとしました。

3年かけてここまで来れたのは僕たちの努力や先生方のおかげです。そして何よりも先輩方の教えがあった結果だと思います。その感謝の気持ちをこめて全国大会でも南小らしい演奏ができるように楽しんできます！

那須塩原市立南小学校 教諭 印南順子

今回、金賞を受賞することができたのは、保護者の皆さんの協力があったからこそです。南小はマーチングではなく座奏なので、打楽器や小道具の搬入など保護者の皆さんの手助けが必要でした。制限時間(1分以内)に楽器を配置し演奏(7分以内)、終わったらまたすばやく搬出です。出演時間は8分以内なので、時間を短縮しようと何度も楽器搬入・搬出を練習し、改善を重ねました。また、曲ごとに変わる背景やダンスを踊る子どもたちの衣装、ドラムセットを載せる台も全て保護者の皆さんの手作りです。子どもたちのために！と皆さんでアイデアを出し合って作っていただきました。



当日は、出場1団体前に演奏するフロア内に入り待機しましたが、初めての会場でうまくいくか大変心配でした。始まってしまえば、保護者の皆さんがすばやくセッティングしてくださり、子どもたちののびのびと演奏することができました。楽しい時間はあっという間に終わりましたが、子どもたちも保護者の皆さんも充実した時間を過ごすことができたようで、満面の笑みで終わることができました。そして思いがけず全国大会の切符をいただき、ただただ驚いております。大阪城ホールで演奏することができるなんて、夢のようです！全国大会でも南小らしく明るく元気に演奏できるよう、がんばります！

6 第14回 東日本学校吹奏楽コンクールに参加して

「第14回 東日本学校吹奏楽大会に参加して」

宇都宮大学教育学部附属中学校 吹奏楽部 部長 上田朱莉

その舞台は、私にとって部にとっても初めての舞台だった。群馬県前橋市にあるベイシア文化ホール。私たちは午前中に最終練習をし、午後にそのホールへ着いた。ホール入口は沢山の人であふれ、楽器置き場に行くとこれから本番を迎える人、演奏が終わりほっとした表情で楽器を片付けている人などでいっぱいだった。周りを見渡すと、今まで見たことのない地区の文字が目に入り、自分たちも東関東を代表してここにいるのだと改めて感じた。

それから本番まではあっという間だった。ステージの上でのことは、緊張もあってあまり細かいところまでは覚えていないが、あの7分間という時間はもう味わうことはできないと思う。それぐらい私にとって特別な時間だったのだ。

演奏が終わり写真撮影では、部員のみならず先生方と写真撮影をした。みんな笑顔で笑っていた。ここまでくるために、私たちは本当に沢山の人から支えられていたんだと深く実感した。

東日本という舞台にたどり着くまで沢山のことがあった。時には大変なこともあったけれど、そのたびに多くの人に助けられた。

部活動3年間のなかで最高の思い出が作れて本当によかったと思う。これを胸に私は、これからも沢山のことに挑戦していきたいと思う。



宇都宮大学教育学部附属中学校 吹奏楽部 顧問 近藤 円佳
東日本大会への切符を手に入れ、大きな喜びを得るとともに、私も生徒たちにも、不安と緊張が重くのしかかっていました。それは、栃木県の代表、東関東の代表と、進めば進むほど、自分たちだけでなく、多くの人たちの涙と思いを背負っているのだということ、代表という2文字に大きな責任を感じていたからです。それでも、大会までの期間、学校行事やテストと、練習時間がほとんどとれない状況の中で、生徒たちは、限られた練習時間を集

中し、やれることを全てやり遂げ、大会に臨みたいと必死でした。

大会当日、午後の部1番でしたが、東関東代表という誇りと私たちの「鳥之岩楠船神～吹奏楽と打楽器群のための神話」を伝えようという熱い思いを胸に、演奏を存分に楽しみ集大成の演奏をすることができました。皆で日々力を合わせ練習に取り組んできたこと、曲にまつわる神社にお参りに行ったこと、東関東大会で作曲者の片岡さんに声をかけていただいたこと、様々なことが昨日のこのようによみがえります。これまでの努力や苦勞助け合いがあったからこそ、今があるのだと思います。音楽を表現し、沢山の感動を与えてくれた28名の生徒たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

「第14回 東日本学校吹奏楽大会に参加して」

市貝町立市貝中学校 吹奏楽部 部長 北野夕夏

「最高の演奏をすること」を目標に今まで練習してきました。しかし、思うような演奏が出来なかったり、皆の心が一つになれなかったりと、悩むこともありました。そうしているうちにミスが増え、どんどん躓いていくこともありました。しかし、それは自分たちの甘さが原因であると気付いてからは、良い緊張感が生まれ、演奏もまとまってきました。

コンクール当日、私達にとっては初めての大舞台でしたが、ステージでは合奏する楽しさや、心がひとつになる喜びを肌で感じる事ができました。演奏終了後は「やりきった！」という思いがこみあげ、皆で涙を流しました。そして、金賞を頂くことができた時、私たちの竹取物語が伝わったのだと感じました。この演奏は私たちの財産です。ここまで来ることができたのも、先生方のご指導や保護者の方、地域の方のご支援があったからこそだと思っています。本当にありがとうございました。



7 クリニック&コンサート情報

■ クリニック

平成26年度 栃木県吹奏楽連盟講習会

平成27年3月14日(土)・15日(日) 宇都宮市文化会館

■ コンサート

宇都宮市立姿川第一小学校吹奏楽部 「ニュー・イヤー・ドリーム・コンサート 2015」

平成27年1月17日(土) 13時30分開演 宇都宮市文化会館小ホール 入場無料

演奏曲目:交響詩「フィンランディア」・TVアニメ主題曲「オトノナルハウヘ」・GUTS 他

高根沢町立阿久津小学校金管バンド 第10回定期演奏会

平成27年3月8日(日)13時30分開場 14時開演 高根沢町 町民ホール 入場無料

演奏曲目:リバーダンス(吹奏楽コンクール演奏曲)嵐メドレー(小学校バンドフェスティバル演奏曲)

ダンシングステージ 他 盛りだくさんです

作新学院高校吹奏楽部 フレッシュ・グリーンコンサート

平成27年5月31日(日) 13時30分開演予定 宇都宮市文化会館・大ホール

入場料 前売り・大人¥800 - 高校生以下¥500 - (当日券は各¥200 - 増)

演奏曲目:2015全日本吹奏楽コンクール課題曲, 2015ニュー・サウンズ・イン・プラス,

問い合わせ先 吹奏楽部090-3318-6826 平日16時~19時 休日9時~18時

編集後記



栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長 三橋 英之(作新学院高校)

今年度、東関東吹奏楽連盟は20周年(関東吹奏楽連盟から数えて70周年)、栃木県吹奏楽連盟は発足して60周年という節目の歳を迎えています。東関東吹奏楽連盟は平成27年2月22日(日)に幕張メッセで、栃木県吹奏楽連盟は平成27年10月18日(日)に記念演奏会と記念式典を催すことになっています。

さて、私事になりますが、私の所属している作新学院高校吹奏楽部の定期演奏会が来年いよいよ50回という節目を迎えます。創部が1957年で、58年目のシーズンです。この間に活動を支えてくれたすべての方々に感謝するとともに、この吹奏楽部の活動がずっと輝いていてくれたらいいなと思います。先日には真岡高校吹奏楽部が創部50周年記念の演奏会を実施し、宇都宮商業高校吹奏楽部が50回目の定期演奏会を開催しました。(他にも県内のバンドで大きな節目を迎えたバンドがあり、紹介できずにすみません)

日本の吹奏楽が本格的にスクールバンドに普及してから50~60年の年月が流れ、レベルは格段に向上し、日本の吹奏楽の水準は世界随一といわれています。100人以上の大所帯で、華やかな演奏をするバンドが多く存在します。一方、少子化の波が押し寄せ、バンドの人数集めに苦慮するバンドも出てきています。少ない部員で活動に苦慮しながらも、吹奏楽を愛し、努力を続けているバンドも少なくありません。いずれにせよ、歴史ある多くのバンドが様々な困難を克服し、吹奏楽活動を継続し、先輩から後輩へとバトンを繋いでいった結果、特別な節目を迎えるバンドが数多く出てきています。とても喜ばしいことです。コンクールで良い成果を上げることも大切ですが、活動を継続していくことの大切さを改めて感じている今日この頃です。

私は私立学校の教員ですので、幸いにも定年まで移動がありませんから、腰を据えて指導できるという点でとてもラッキーでした。代替わりのこの時期にあたり、改めてマンネリに陥らず、きちんとリセットして、新鮮な気持ちで指導にがんばろうと思った次第です。

この冬場の大切な時期には良い刺激を求めて積極的に他の団体と交流を持ち、また、どんなに小さくても演奏の機会を作り、大勢の人たちと交流する場を設けましょう。

指導者の皆さんがんばりましょう。

また、広報誌に対する要望・意見・感想などお待ちしております。是非お寄せください。